国立大学法人千葉大学の平成23年度に係る業務の実績に関する評価結果

１　全体評価

千葉大学は、「つねに、より高きものをめざして」という理念のもと、世界を先導する創造的な教育・研究活動を通しての社会貢献を使命としている。第２期中期目標期間においては、総合的で高度な個性ある教育プログラムと最善の環境の提供による有為な人材の育成や世界的な研究拠点を育成し、基礎研究から応用研究までを自由な発想に基づき重層的に推進すること等を目標としている。

この目標達成に向けて学長のリーダーシップの下、医療系３学部の合同教育である専門職連携教育の推進、「学長企画戦略室」の設置による戦略的な企画運営体制の構築等、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

なお、アクティブ・ラーニングの手法を取り入れた科目や ICT を活用した教育方法の改善等を通して、学習の双方向性を確保し、主体的な学びに裏打ちされた情報発信能力を涵養するため、アクティブ・ラーニング・スペース、ティーチング・ハブ、コンテンツ・ラボの３機能を備えたアカデミック・リンクの構築を行っている。このように、第２期中期目標期間において、主体的な学びを通じて課題探求能力を備えた「考える学生」を創造することを目指した戦略的・意欲的な計画を定めて、積極的に取り組んでいる。

２　項目別評価

Ⅰ．業務運営・財務内容等の状況

（１）業務運営の改善及び効率化に関する目標

（①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化）

平成 23 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○　新たに「学長企画戦略室」を設置し、経営戦略室、組織改革戦略室、国際戦略室及び附属病院担当室を置き、学長の諮問に基づき、研究活性化、教育改革、国際化等の戦略について取りまとめ、答申している。

○　学長裁量経費について、既存のプロジェクト経費からの組替も行いつつ、約６億円（対前年度比１億 6,000 万円増）を確保するとともに、強みを持つ研究を支援し、世界水準の研究拠点の構築を目指す「トップダウン型学内支援プログラム」を新設するなどの充実を図り、学長のリーダーシップによる戦略的・重点的配分を強化している。

○　教員の研究環境整備と研究資金の獲得を目指して、リサーチ・アドミニストレーター２名を学内予算措置により配置している。

【評定】　中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由）　年度計画の記載８事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的

に勘案したことによる。

（２）財務内容の改善に関する目標

（①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加、②経費の抑制、③資産の運用管理の改善）

平成 23 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○　科学研究費助成事業に関する説明会の開催や動画配信、不採択になったものの優れた研究課題へ研究費支援を行うインセンティブ付与の取組等を行った結果、科学研究費助成事業の採択件数 764 件（対前年度比 82 件増）、採択金額は 20 億 2,100 万円（対前年度比 1 億 2,600 万円増）となっている。

○　附属病院の経営改善対策について経営戦略会議を中心に実施し、目標病床稼働率の達成、手術室の増室等により、対前年度比約 17 億円の増収を図っている。

○　総人件費改革を踏まえた人件費削減については、平成 18 年度からの 6 年間で 5.5 ％の削減が図られている。

【評定】　中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由）　年度計画の記載 6 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

（３）自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

（①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進）

平成 23 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○　「第２期中期目標期間における点検・評価の実施計画」に基づき、教育学部等８部局の外部評価を計画どおり実施し、改善に活用している。

【評定】　中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由）　年度計画の記載２事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

（４）その他業務運営に関する重要目標

（①施設設備の整備・活用等、②安全管理、③法令遵守）

平成 23 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○　環境に関する取組として、学生で構成する環境 ISO 学生委員会が県内外の小中学校に出向き環境に関する企画やエコマーク等の標準化の意義について教える「標準化教室」の出前授業を行うなど、学生の主体的参加を伴う活動が行われており、これらの成果をまとめた「千葉大学環境報告書 2011」は、第 15 回環境報告書賞（東洋経済新報社、グリーンリポーティングフォーラム）の公共部門賞を受賞（３度目の受賞）している。

○　総合安全衛生管理機構において、職員のメンタルヘルス管理の一環として、職員健康診断時にメンタルヘルスに関する問診をコンピュータによる自己入力方式により実施し、回答者数は 4,132 名に及ぶとともに、「うつ」の可能性ありとなった者に対しては、注意喚起をし、必要に応じ面接を行うなどの取組を進めている。

【評定】　中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由）　年度計画の記載６事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

Ⅱ．教育研究の質の向上の状況

平成 23 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○　従来からの入学時全員に TOEIC　IP 試験を受験させる取組に加え、薬学部・医学薬学府では、３年次生、５年次生及び修士課程（薬学系）１年次生に TOEIC　IP 試験を受験させ、１年次との比較を含めた英語コミュニケーション能力の向上についての検証を行っており、平成 19 年入学者では、１年次の TOEIC 成績に比べ平均点において 85.1 点の向上が見られるなどの成果が確認されている。

○　先進的マルチキャリア博士人材養成プログラムにおいて、「研究成果をもとに新製品を創出する技術完成力」、「新製品をもとに事業を発展させる技術経営力」、「グローバル市場で勝ち抜くための技術交渉力」を併せ持ち産業界で活躍できるマルチキャリアドクターを養成しており、インターンシップを中心とした人材養成について産業界からも高い評価を受けている。

○　医療系３学部（医学部・薬学部・看護学部）の教育課程の中に合同教育として専門職連携教育（Interprofessional　Education：IPE）を位置づけ、教員、附属病院の医療職者、地域の医療職者、患者会等市民による多数の協力等を得て実施し、平成 23 年度においては、IPE に関わる能力開発に向けた教材の開発や学士課程 IPE の効果測定のための評価指標開発に取り組んでいる。

○　宇宙から飛来する高エネルギー粒子の放射源と放射機構をニュートリノ観測と理論

・シミュレーション研究の連携によって解明することを目的とした「理学研究科附属ハドロン宇宙国際研究センター」を設置し、高エネルギーニュートリノ観測と大規模数値シミュレーションによる天体プラズマ研究の両グループを有機的に結び付けた研究を戦略的に推進し、世界に向けて研究成果を発信することを目指している。

○　地域の産・学・官が共同し、地域における知識集約型のオープンイノベーションや新事業、新技術の創出を目指す拠点として「千葉大学サイエンスパークセンター」を開設し、地元の教育・研究機関とも連携体制を整備するとともに、医工連携分野では次世代型抗体創薬システムやヨウ素研究、ロボティクス分野では超小型空中ロボット等の研究を開始している。

○　企業との共同研究及び共同研究講座設置の推進を目的とした知識集約型共同研究拠点を旧薬学部施設に整備し、理工系を中心とした研究力の強化、研究シーズの社会への積極的な還元、産学連携によるオープンイノベーション型研究開発の推進のためのウェットラボ５室、ドライラボ 13 室（延床面積 1,550 ㎡）を整備している。

共同利用・共同研究拠点関係

○　環境リモートセンシング研究センターでは、マイクロ波によるリモートセンシングを目的として日本最大の無人航空機（UAV）を開発している。さらに、UAV での知見を基礎として、GPS センサや円偏波合成開口レーダを搭載した小型衛星の開発も進めているなど、研究機能の強化に取り組んでいる。

○　真菌医学研究センターでは、国際貢献として独立行政法人科学技術振興機構（JST）、独立行政法人国際協力機構（JICA）と協力し、ブラジルにおけるエイズ患者等の免疫不全患者の真菌症対策を行い、成果の一部はエイズ患者の延命や生活の質の改善へ向けた新規検査法や新規治療法となっている。

附属病院関係

（教育・研究面）

○　医学部附属病院内に、医師・その他の医療専門職が基本的診療技能や最新技術を修得するための研修と県内医療機関の求人紹介の機能を兼ね備えた「県医師キャリアアップ就職支援センター」を設置している。

○　総合医療教育研修センターに評価部門を新設するとともに、専任の担当者を配置したことにより、従来よりも長期かつ継続的な評価を実施する体制を整備し、研修医や医学部６年次生等に対する各種調査を開始している。また、シミュレーションによる技能教育・研修の充実を図るべく、国内でも最大規模の「クリニカル・スキルズ・センター」を新設したことに加え、教育専任教員を配置し、学生、研修医に対する臨床指導を強化している。

（診療面）

○　医療安全への取組として、窒息誤嚥防止マニュアル、中心静脈カテーテル挿入マニュアル、臓器提供マニュアル、脳死下臓器提供者から被虐待児を除外するマニュアルを新たに作成するなど、医療安全管理マニュアルの整備を進め、研修会の実施により職員への周知を図ったほか、臓器提供に関してはシミュレーションを実施している。

また、平成 23 年度から総合医療教育研修センターと連携して、最新のシミュレーターを活用した病棟・診療部門ごとの急変対応セミナーを開催し、急変時の対応・実技訓練を行っている。

Ⅲ．東日本大震災への対応

○　災害派遣医療チーム（DMAT）や医療救護班等が被災地において医療支援活動を行っている（延べ 215 名）ほか、被災地の地域精神医療に対する支援、学内のメンタルヘルス関連部門の協働等による心のケアチームの派遣を行っている。

○　福島第一原子力発電所への医療支援として看護師を派遣するとともに、各医療機関の派遣予定看護師を対象に「緊急被ばく医療講習会」を開催している。

○　園芸学研究科等では、福島県、川俣町と共同し、安全な農産物の供給、川俣町内の計画的避難区域の汚染状況に関する調査研究を行うとともに、同町や農協の職員等に対する放射性物質汚染状況、除染計画、農業復興に関する研修等を実施している。

○　法経学部では、「震災復興インターンシップ」を実施し、参加学生が陸前高田市において田畑のがれきの撤去・再生の作業を行うとともに、「再生可能エネルギーによる被災地復興と仕事おこし研修会」を仙台市で開催し、再生可能エネルギー全般の知識とエネルギー種別の事業化や資金調達のノウハウについての研修機会を提供している。

○　大学内の放置自転車や不要になった自転車をキャンパス整備企画室と環境 ISO 学生委員会を中心とした学生が協力して整備等を行い、被害の多かった地域へ届けるプロジェクトを実施している。

○　「ボランティア活動支援センター」を設置し、ボランティア活動に関する企画、情報の収集・提供、活動用品の貸与・支給等の各種支援を行っている。

○　被災学生に対する入学料・授業料の免除、千葉大学 SEEDS 基金による被災学生支援金の給付等の経済的支援を行っている。